

学校だより 時を守り 場を清め 礼を正す

けいせい

帯広市立啓西小学校

どんだん(活動する子)

わくわく(感動する子)

いきいき(表現する子)



令和6年4月11日発行

～今年度、7名の教職員が啓西小学校に転入いたしました～

() 教諭【〇〇小学校より】

〇〇小学校より赴任した〇〇〇〇です。好きな給食は、肉じゃがです。啓西小学校の子ども達と一緒に勉強したり、給食を食べたりすることが楽しみです。これから、明るく元気な啓西小学校の子ども達のために、頑張っていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。

() 教諭【〇〇小学校より】

〇〇小学校から赴任しました〇〇〇〇です。保護者と地域の皆様のお力をお借りしながら、子どもたちが楽しく学校生活を送れるよう精一杯がんばります。どうぞよろしくお願ひいたします。

() 教諭【〇〇小学校より】

〇〇小学校より赴任した〇〇〇〇です。全校児童22名の学校にいました。そのため、300名を超える啓西小のみなさんを見て驚いています！早くみなさんの名前を覚え、ともに楽しい学校生活を送りたいです。お話しするのが大好きですので、お子さんのみならず、保護者、地域の皆様ともたくさんお話していききたいです。どうぞよろしくお願ひいたします。

() 教諭【〇〇小学校より】

〇〇小学校より赴任した〇〇〇〇です。3・4年生の理科を担当させていただくことになり、嬉しく思います。子どもたちの健やかな成長のために頑張ります。地域・保護者の皆さま1年間どうぞよろしくお願ひいたします。

() 生活介助員【〇〇中学校より】

〇〇中学校から来ました生活介助員の〇〇〇〇です。子供達が毎日元気いっぱい笑顔いっぱい楽しく学校生活を送れるよう支援していききたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。

() 校務員【新規採用】

4月より校務員を務めます〇〇〇〇と申します。山菜採りが好きです。啓西小学校の子どもたちのために頑張っていきたいと思えますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

() 給食配膳・収納員【新規採用】

4月より、給食配膳・収納事務を務めます〇〇〇〇です。啓西小学校のみんなが安心安全な給食で楽しい学校生活を送れるよう頑張ります。どうぞよろしくお願ひいたします。

1年間 どうぞよろしくお願ひいたします

令和6年度 啓西小学校グランドデザイン Version II

啓西小学校は、帯広市で9番目に開校した小学校で今年度、開校58年を迎えます。九は久（永遠に変わらないもの）に通じるとされていること。また、9は一桁の数字の中で最も大きく、究極の数として縁起のよい数字とされてきました。

今年度は「3つのあ」×「3つのことば」=9にあやかり、啓西っ子に身に付けさせたい力をデザイン化しています。保護者の皆さんにもご覧いただきたいと思っております（詳しくは、授業参観日の学年懇談でお話します）。

啓西っ子につけさせたい 9 の力 ~ No9のみんなのがんばり ~

【啓西っ子のよいところ】

- ☆ 人懐っこく、明るく朗らかな子どもが多い
- ☆ 約束やルールを守れる子どもが多い
- ☆ よくない言動に対して、同調する子どもが少ない
- ☆ 自分の行動を振り返り、説明でき、反省を考えられる子どもが増えてきた。

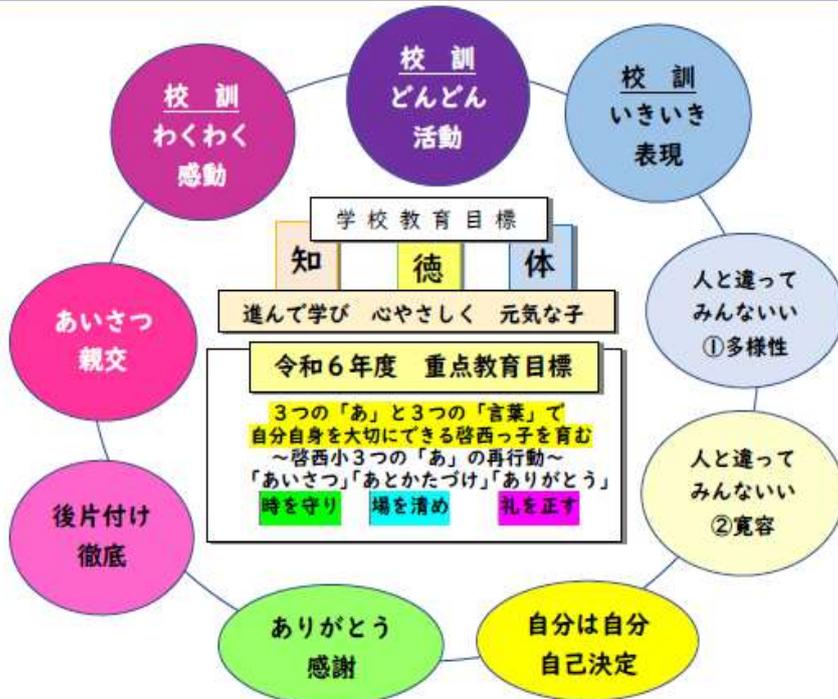
3つの「あ」
あいさつ
ありがとう
あとかたづけ

3つのことば

- ①「どうしたの？」
- ②「あなたはどうしたいの？」
- ③「何をしてほしいの？」

【啓西っ子の改善したいところ】

- ☆ 学びや活動への意欲や根気強さが二極化傾向
- ☆ 人との関わり方が幼く、話し合いや認め合いが深まらない
- ☆ 前に出てくる子どもと後ろで我慢してしまう子どもが固定しがちである



「認め、褒め、励ます」と「子どもの声に耳を傾け、時に待つ!!」

私たち大人は、必要以上に口や手を出すことなく、常に子どもに自己決定の機会を与えましょう!

(帯広市立の学校として) 重点を具現化する取組を支える学校の姿 <北海道教育委員会「学校力向上に関する総合学習事業を生かして」>

教育目標と校訓を基盤に、めざす子ども像と教師(指導)像を明らかにして目に見える形で組織的な学校改善の取組を積み上げ、学校力を向上させる

令和6年度の啓西小学校は、『3つの「あ」と3つの「言葉」』で継続行動することを基盤とし、より多様な人々と連携・協働し合い、より多様な方法で“主体的・対話的な深い学びの実現を図ってまいります。自分自身を大切にできる子どもを育成する教育にご理解・ご支援をお願いします。

グランドデザインに込めた思い

学校は、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」といった「生きる力」を意図的・計画的に教育活動に関連づけ、バランスよく育てていく場です。また、子どもたちが将来、社会で求められる知識や技能を習得したり、人とのかわり方や生き方を身に付けたりしていく場でもあると考えています。

家庭は、子どもたちにとって心安らく居場所であり、家族の愛に包まれながら生活する場であってほしいと思います。また、親は子どもに対して、しつけを中心として基本的な生活習慣や礼儀作法を身に付けさせる場であってほしいと考えます(3つの「あ」でお示したあいさつ、あとかたづけ、ありがとう等を含みます)。

地域社会はコミュニティ・スクールとして、子どもたちが生き方を考えたり、社会性を身に付けたりする重要な場です。学校・家庭・地域社会が、子どもたちに「ふるさとの風土に学び 人がきらめき人がつながる おびひろの教育」の帯広市がめざす教育の基本理念のもと、西陵中エリアファミリー(帯五中とも同様に連携を深めています)の「人とつながり、きらめく子ども~自ら考え 判断し 行動できる~」を目指す子ども像とし、それぞれの役割と責任を自覚しながら子どもに向き合うことが大切です。

これらのことを踏まえ、日常的なかかわりの中で、子どもの成長を促し、指示により動いたというよりは、自分で考えて動いたことで成功体験を得たという思いを実感させることができると考えています(もちろん、年齢や発達段階に応じて関わり方の深まりは違ってきます)。

その意味では、「認め 褒め 励ます」、「子どもの声に耳を傾ける(傾聴)」=3つの言葉(どうしたの? どうしたいの? 何をしてほしいの?)で、これまで以上に子どもに自己決定の機会を与え、自己肯定感や自己有用感の高まりにつなげていきたいと思っております。

先を見通すことが困難な現代において、誰一人取り残すことのない、多様な学びと安心な居場所を築き、一人ひとりが新たな夢や目標を描き追い続け、安全で安心な教育を推進することが重要です。今年度も引き続き、皆様方のご理解とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。